

## 日本がん疫学研究会

### 代表幹事に就任して

大阪府立成人病センター調査部 大島 明

今年8月の名古屋での日本がん疫学研究会総会において、久道 茂先生の後を受けて代表幹事に就任することとなった。大学卒業以来ずっとがん予防の実践に取り組んできたものの大した成果も上げられなかった自分が代表幹事に推されるとは、正直言って思いもしなかった。はじめはがん検診、次いで、がん検診の疫学的評価、そしてこの10年は禁煙指導などのたばこ対策に興味を持ち、公衆衛生の範囲内で好きなことを勝手気ままにさせてもらったが、この間、がんの原因究明の研究にはあまり関心を持たなかったし、系統的な疫学の勉強はせず、また後進の指導にも精力を割くことはなかった。この様な人間を代表幹事にするとはまさに異例の人事というべきである。

ところで、ご承知のように、胃がんや子宮頸がんの減少、大腸がんや乳がんのような欧米に多いがんの増加、肺がん、肝がん、膵がんのような難治がんの増加など、この30年間の間にわが国のがんの罹患のパターンは大きく変化している。このようながんのパターンの変化に自分は何らかの寄与をいただけるか。あるいは、このようながんのパターンの変化に対応して何かをしようとしているだろうか。がんの疫学研究に従事するといいながら、実際は、自然の成り行きに任せるだけで、積極的には何もしてこなかったのではないかと、の忸怩たる思いがある。とくに、たばこ肺がんをはじめとする多くのがんとの密接な関連については、わが国においても多くの研究が行われたにもかかわらず、わが国のたばこ対策は世界で最も遅れたものにとどまっている。たばこをめぐるわが国の困難な状

況を切り拓くことは、がんの疫学研究に従事するものとしての緊急課題であると考えている。幸い、故平山 雄先生、富永祐民先生のご努力の甲斐あって、昨年3月のたばこ行動計画検討会報告書の発表以来、分煙、防煙、禁煙の各分野での取り組みがようやく具体的に始まろうとしている。このような機会に、これまでのような個人的な努力に依存するだけでなく、がんの疫学研究会の組織としてたばこ対策に対して積極的な提言を行うことは、大いに意義がある。この点で何らかの役割を果たしたいと考えている。

なお、今年の4月に職場が大阪がん予防検診センターから大阪府立成人病センター調査部に変更し大阪府がん登録を担当することとなった。地域がん登録は、単にがんの実態の把握にとどまらず、がん対策の評価やがん提言にも積極的に活用するべきであると考えている。わが国の地弱なものでしかないが、幸い、藤本伊三郎先生はじめ多くの方々のご努力の甲斐あって、地域がん登録全国協議会が5年前に組織され、また、厚生省がん研究助成金によるがん登録の研究班が22年前から現在まで継続している。今後、地域がん登録資料をさらに積極的に活用することにより、がん登録が広く社会に認知され必要な整備が図られていくよう努力していきたい。

上記のように、がん疫学研究会の第1世代の偉大な先輩の先生方が開拓された仕事を、第2世代の人間として何はともあれ引き継ぎ、相互に厳しく批判をしながらも楽しく仕事ができるような環境をつくっていきたいと考えている。研究会の運営については、先代、先々代の代表幹事の富永先生、久道先生の敷かれた路線を踏襲し、わが国のがん疫学研究者の意見・情報交換の開かれた場となるよう、微力を尽くしたい。幹事、事務局、及び会員の先生方のご支援、ご鞭撻をよろしく願います。

## 第19回日本がん疫学研究会「食生活関連がんの予防」を終えて

名古屋市立大学医学部公衆衛生学教室  
徳留信寛

第14回国際疫学学会学術会議(ISM・IEA)(愛知県がんセンター名誉総長 青木國雄先生主催)のサテライトミーティングの一つとして、去る8月26日に名古屋国際会議場において、第19回日本がん疫学研究会をメインテーマ「食生活関連がんの予防」のもと開催させていただきました。

午前中は、文部省科学研究費国際学術研究がん特別調査により補助された分担研究者による食生活関連がんに関する5題の一般講演: Dr. M.A. Garces (Guatemala). Diet and stomach cancer. 座長:吉村健清先生(産業医科大学); Dr. Y.-O. Ahn (South Korea). Diet and liver cancer in Korea. 座長:重松峻夫先生(福岡大学医学部); Dr. S.-Z. Yu (PRC). Diet and primary hepatocellular carcinoma in Fusui. 座長:徳留信寛(名古屋市立大学医学部); I.Serra (Chile). Diet, gallstones and gallbladder cancer. 座長:山本正治先生(新潟大学医学部); Dr. S. Cornain (Indonesia). Nutritional risk factor analysis in Japan-Indonesia joint study on breast cancer. 座長:大野良之先生(名古屋大学医学部)が行われました。次に、特別講演: Dr. M.Hakama (Finland). Randomized controlled

trials in the world. 座長: 富永祐民先生(愛知県がんセンター)がありました。

午後には、教育講演: 西野輔翼先生(京都府立医科大学)「がんに対するケモプリベンションの展望」座長: 清水弘之先生(岐阜大学医学部)が行われました。最後に「食生活関連がんに対する無作為割付臨床試験」に関するパネルディスカッションを渡辺昌先生(東京農業大学)、大島明先生(大阪府立成人病センター)の座長のもと、松村康弘先生(国立健康・栄養研究所)、食生活介入の問題点; 池田正人先生(産業医科大学)、統計学的側面 — misclassification の影響の評価; 濱嶋信之先生(愛知県がんセンター)、がん予防のための無作為割付介入研究におけるインフォームドコンセント; 中地敬先生(埼玉県立がんセンター)、緑茶によるがんの化学予防にむけて; 石川秀樹先生(大阪府立成人病センター)、大腸がん予防のための介入試験における適切な食物繊維投与量の検討; 津金昌一郎先生(国立がんセンター)、 $\beta$ -カロテンとがん — 栄養素補給による無作為割付臨床試験とその日本での実施可能性 — の発表とディスカッションがなされました。

私どもには食生活とがんとの関連の研究は優先性が高いという共通の認識があります。食生活には功罪両面がありますが、食物・食品の交互作用の究明は十分ではなく、食生活とがんとの関連の研究には整合性を欠くものがあり、当該の研究がいっそう必要であると言えるでしょう。今後の研究の方向としては、リスクファクターから抑制要因の研究





へ、がん発生機構に関する基礎研究から応用研究へ、観察型疫学から臨床試験・ケモプリベンションへの展開が望まれることが確認されたと考えます。

今回、学会・懇親会参加費をプリペイド方式にしましたが、多くの会員の方々のご協力が得られました。学会参加者には講演内容の理解と討論を深めるために、参加されない会員の方々に情報を提供すべく、あらかじめ全会員に研究会抄録集をお送りしました。本学会開催案内の関連学会ジャーナル・情報誌などへの掲載、関連の大学・病院・施設などへのポスター・チラシの配布に加えて、インターネットに学会ホームページの開設も行い情報を発信しました。さらに、ご希望の方には学会抄録集を無料配布しました。

第14回ISM・IEAへの参加の機に出席された諸外国の講演者及び参加者、国内の講演者及び参加者は総数で200名(会員外の方約80名を含む)を上回る盛会でした。演者の先生方の講演が大変示唆に富み、座長の先生方のご高配によりディスカッションが活発に行われました。本学会がわが国及び諸外国における「食生活関連がんの予防」に関する研究・実践のために、いくらかでも寄与するところがあれば誠に光栄に存じます。最後に、本学会が質・量ともに成功裡に終了したことは、諸先生方のご援助・ご協力によるものと考え、心より感謝いたします。

日本がん疫学研究会による、  
「日本人のがん予防のための指針」(仮称) 検討についてのお知らせ、と  
「第1回意向調査」への協力をお願い

日本がん疫学研究会がん予防指針検討委員会  
(委員長) 福田勝洋  
(委員) 大島 明、田島和雄、富永祐民、  
久道 茂、蓑輪真澄

第19回日本がん疫学研究会(8月、名古屋)において、一般の日本人を対象とする「日本人のがん予防のための指針」(仮称)を検討するための委員会が設置されました。

そのためには緊急度が高く信頼性の高いものにする必要がありますので、全会員の意向を集約しながら当委員会できちんと、最終的には全会員の判断により決めることとなります。

当委員会の最初の仕事として、指針を検討する上での方針や骨子を煮詰めるための第1回意向調査を企画しましたので、会員の皆様のご協力をお願い致します。このような指針作成に賛同できないとお考えの方も、お届けする調査用紙上で、是非、その旨のご回答をいただきたいと思っております。

## 第20回日本がん疫学研究会のご案内 会長 福田勝洋(久留米大学医学部教授)

第20回日本がん疫学研究会を下記の要領で開催します。多数の皆様のご参加をお待ちしております。

日 時：平成9年4月1日(火) 9:30~

会 場：久留米市旭町、久留米大学医学部

主 題：日本がん疫学研究会の20年と課題  
シボジウム：

「日本人の喫煙とがん」  
座長 秋葉澄伯 (鹿児島大学)  
演者 祖父江友孝 (国立がんセンター)  
蓑輪真澄 (国立公衆衛生院)  
荻本逸郎 (久留米大学)  
中村正和 (大阪がん予防検診センター)

特別講演：  
「がんとライフスタイル」  
—近年における知見と将来への展望—  
座長 大島 明 (大阪成人病センター)  
演者 廣畑富雄 (中村学園大学)

シボジウム：  
「日本がん疫学研究会の20年と課題」  
座長 森本兼曩 (大阪大学)  
演者 岸 玲子 (札幌医科大学)  
酒井敏行 (京都府立医科大学)  
橋本修二 (東京大学)  
菊池正悟 (順天堂大学)

懇 親 会：17:20-18:30、久留米大学医学部

事 務 局：〒830 久留米市旭町67番地  
久留米大学医学部公衆衛生学講座内  
第20回日本がん疫学研究会 柴田 彰  
Tel 0942-31-7553 Fax 0942-31-7698

## 1996年度日本がん疫学研究会幹事会 議事録要旨

日 時：1996年8月25日（日）5:00～7:20 PM

場 所：名古屋市立大学（名古屋）

出席者：久道、深尾、中地、稲葉、渡辺（昌）、津金、山本、徳留、小川、富永、田島、黒石、清水、渡辺（能）、大島、花井、吉村、福田、秋葉

### 庶務報告

田島庶務担当幹事から、1996年8月1日現在の会員数は263名（幹事数は34名）と報告された（資料2参照）。また、第18回日本がん疫学研究会の記録集は篠原出版から「癌の臨床」42巻（1996年）3月号の特集「がんのリスク評価」（¥1,900）として発刊されたので、バックナンバーの雑誌と同様に会員諸氏に購読を期待したい旨、報告があった。

### ニュースレターの発刊

深尾編集幹事から、昨年度は渡辺（能）幹事と共に、43～46号の4回分を発刊した旨、報告があった。今年度からは主編集者が渡辺（能）幹事となり、副編集者には国立がんセンター研究所がん情報研究部の山口（直）幹事が推薦され、本人も受諾して承認された。

### 会計報告

田島庶務担当幹事から、平成7年度の会計収支報告、花井監事から監査報告があり、承認された。平成8年度の予算案については、平成9年4月1日に開催される第20回日本がん疫学研究会の開催援助を事務手続き上、前年度（8年度）予算に計上すべきとの提案があり、承認された。従って、残金は5万円余となってしまうので、昨年度までは毎年計上していた予備費を止めることを余儀なくされた。

### 役員等の一部改選

まず、柳川幹事と渡辺（決）幹事は定年のため今年度で本研究会から退任され特別会員に推薦された。次に、他の任期切れ予定の幹事14名と若手の幹事候補者数名とで選挙が行われ、現幹事の中から12名、新幹事として4名、合計16名が選出された。新幹事には中村正和氏（大阪がん予防検診センター、調査部）、祖父江友孝氏（国立がんセンター、がん情報研究部）、浜島信之（愛知県がんセンター、疫学部）、森満氏（佐賀医科大学、地域保健科学）らが選出された。（資料参照）

さらに、今年度で清水幹事の監事が任期切れになるので新監事として中地敬幹事が推薦され、本人も受諾し承認された。

### 次々年度の研究会開催

次々年度（平成10年度）の会長には山本正治幹事（新潟大学医学部、衛生学）が推薦され、同氏も受諾し承認された。

### 次年度の日本がん疫学研究会の開催

次年度（平成9年度）の第20回日本がん疫学研究会の会長福田勝洋幹事（久留米大学、公衆衛生学）から、次期研究会は第20回を記念したシンポジウムを企画し、久留米市において4月1日（火）に開催する旨、報告された。さらに、20周年を期に本研究会から「日本人がん予防のための指針」を出すために、全会員に対するアンケート調査を実施したいとの提案があった。本問題については時間をかけて討議された。その結果、次期会長の福田幹事と次期代表幹事の大島幹事が中心となって数人からなる「がん予防指針検討委員会」を結成し、その場で十分に討議してがん予防指針の原案を作成し、それを最終的に総会で図って作成することになった。

### その他

稲葉幹事から、第7回日本疫学会学術総会は「21世紀の疫学を目指して」を主題とし、平成9年1月23～24日に北トピアにて開催するので、日本がん疫学研究会からも多くの演題を応募していただきたい旨、報告があった。

### 資料

#### 日本がん疫学研究会幹事・監事・特別会員・顧問会員

##### 1) 幹事

岸 玲子*	札幌医科大学公衆衛生学講座
久道 茂**	東北大学医学部公衆衛生学教室
深尾 彰**	山形大学医学部公衆衛生学教室
中地 敬**	埼玉県立がんセンター研究所疫学部
村田 紀**	千葉県がんセンター研究局疫学研究部
稲葉 裕*	順天堂大学医学部衛生学教室
渡辺 昌*	東京農業大学農学部栄養学科
津金昌一郎*	国立がんセンター研究所支所臨床疫学研究部
山口 直人*	国立がんセンター研究所がん情報研究部
祖父江友孝**	国立がんセンター研究所がん情報研究部
簗輪 眞澄**	国立公衆衛生院疫学部
恒松 由記子*	国立小児病院血液腫瘍科
山本 正治*	新潟大学医学部衛生学講座
清水 弘之**	岐阜大学医学部公衆衛生学教室
大野 良之**	名古屋大学医学部予防医学教室



徳留 信寛*	名古屋市立大学医学部公衆衛生学教室
小川 浩*	愛知みずほ大学人間科学部健康科学
富永 祐民*	愛知県がんセンター研究所
田島 和雄**	愛知県がんセンター研究所疫学部
黒石 哲生*	愛知県がんセンター研究所疫学部
浜島 信之**	愛知県がんセンター研究所疫学部
渡辺 能行*	京都府立医科大学公衆衛生学教室
森本 兼曩**	大阪大学医学部環境医学教室
大島 明**	大阪府立成人病センター調査部
津熊 秀明*	大阪府立成人病センター調査部疫学課
花井 彩*	地域がん登録全国協議会
中村 正和**	(財)大阪がん予防検診センター調査部
大瀧 慈*	広島大学原爆放射能医学研究所環境情報計量生物学分野
馬淵 清彦**	(財)放射線影響研究所疫学部
古野 純典**	九州大学医学部公衆衛生学講座
吉村 健清*	産業医科大学産業生態科学研究所臨床疫学教室
福田 勝洋*	久留米大学医学部公衆衛生学教室
森 満**	佐賀医科大学地域保健科学教室
秋葉 澄伯*	鹿児島大学医学部公衆衛生学講座

## 2) 監事

花井 彩*	地域がん登録全国協議会
中地 敬**	埼玉県立がんセンター研究所疫学部

## 3) 特別会員

栗原 登	宮城県公衆衛生協会
藤本伊三郎	地域がん登録全国協議会
加美山茂利	仙台予防医学研究所
加藤 寛夫	放射線影響研究所疫学部
重松 峻夫	福岡大学医学部公衆衛生学教室
青木 國雄	(財)愛知県健康づくり振興事業団
井上 怜子	(財)神奈川県予防医学協会
川井 啓市	大阪鉄道病院
廣畑 富雄	中村学園大学
三宅 浩次	札幌医科大学公衆衛生学講座
中村 健一	昭和大学医学部衛生学教室
柳川 洋	自治医科大学公衆衛生学教室
渡辺 決	京都府立医科大学泌尿器科学教室

## 4) 顧問会員

倉恒 匡徳	九州大学名誉教授
重松 逸造	放射線影響研究所理事長
菅野 晴夫	(財)癌研究会癌研究所名誉所長
山本 俊一	聖路加看護大学副学長
杉村 隆	国立がんセンター名誉総長
小林 博	(財)札幌がんセミナー理事長
Brian E. Henderson	南カリフォルニア大学教授
Robert W. Miller	NCI臨床疫学部長

Hiroshi Nakajima WHO事務総長

\* の幹事・監事の任期：1995年7月1日～1997年6月30日

\*\* の幹事・監事の任期：1996年7月1日～1998年6月30日

## 日本がん疫学研究会開催状況および記録集発刊状況

第1回 1977年12月17日(世話人:富永祐民、平山雄、古川俊之)、名古屋、がんの計量疫学、篠原出版:癌の臨床別集「がんの計量疫学」平山雄編、1980年7月25日刊(¥3,600)

第2回 1979年5月27日(世話人:富永祐民、平山雄、青木国雄)、名古屋、日本人に多いがん、少ないがん、—その疫学と病態生理—、篠原出版:癌の臨床別集「がん・日本と世界—その動向と病因論」長与健夫、富永祐民編、1980年10月20日刊(¥6,000)

第3回 1980年6月28日(世話人:藤本伊三郎、平山雄、青木国雄、富永祐民)、大阪、がん登録の疫学的意義とその応用、篠原出版:癌の臨床別集「がん登録と臨床疫学」藤本伊三郎、大島 明編、1981年4月13日刊(¥3,500)

第4回 1981年6月27日(世話人:久保利夫、平山雄、青木国雄、藤本伊三郎、富永祐民)、埼玉、がん研究—疫学と病理学の接近—、篠原出版:癌の臨床、vol.28、No.8、1982、特集「がん研究、疫学と病理学の接近」(¥3,800)

第5回 1982年6月11日(世話人:栗原登、加藤寛夫)、広島、がん研究における生物学と統計学の接近、(抄録集のみ)

第6回 1983年6月2日(会長:倉恒匡徳)、福岡、職業がん、篠原出版:癌の臨床別集「職業がん—疫学的アプローチ—」倉恒匡徳編、1984年12月1日刊(¥3,900)

第7回 1984年6月22日(会長:久道 茂)、仙台、がんの一次予防と二次予防、篠原出版:癌の臨床別集「がんの一次予防と二次予防」市川平三郎、久道茂編、1987年3月30日刊(¥5,500)

第8回 1985年6月28日(会長:加美山茂利)、秋田、がんと食事、栄養—疫学的ならびに実験的アプローチ—、篠原出版:癌の臨床 vol.32、No.6、1986、特集「がんと栄養、食事—疫学的ならびに実験的アプローチ—」(¥4,000)

第9回 1986年6月26日(会長:村田 紀)、千葉、がん病因における宿主要因と環境要因、篠原出版:癌の臨床 Vol.33、No.5、1987、特集「がん病因における宿主要因と環境要因」(¥4,300)

第10回 1987年6月12日(会長:大野良之)、名古屋、がんの分析疫学研究-方法と解析-、篠原出版:癌の臨床別集「臨床家のためのがんのケースコントロール研究-理論と実際-」、大野良之編、1988年6月1日刊(¥5,500)

第11回 1988年6月3日(会長:渡辺 昌)、東京、がん対策において疫学は何ができるか?、篠原出版:癌の臨床 Vol.35、No.2、1989、特集「がん対策において疫学は何ができるか」(¥4,500)

第12回 1989年6月17日(会長:廣畑富雄)、福岡、がんとライフスタイル-がん予防への道-、篠原出版:癌の臨床 Vol.36、No.3、1990、2月臨時増刊号、特集「がんとライフスタイル-がん予防への道」(¥5,150)

第13回 1990年7月6日(会長:三宅浩次)、札幌、がんとライフスタイル、篠原出版:癌の臨床 Vol.37、No.3、1991、2月臨時増刊号、特集「日常生活とがん予防」(¥4,326)

第14回 1991年6月13日(会長:稲葉 裕)、東京、がんと先行病変、篠原出版:癌の臨床 Vol.38、No.3、1992、特集「癌と先行疾患」(¥4,850)

第15回 1992年6月12日(会長:大島 明)、大阪、がん予防の実践とその評価、篠原出版:癌の臨床 Vol.39、No.4、1993、3月臨時増刊号、特集「がん予防の実践とその評価」(¥4,700)

第16回 1993年6月26日(会長:中村健一)、東京、がん疫学研究の原点と展開、篠原出版:癌の臨床、Vol.40 No.2、No.4、1994、特集「がん疫学研究の原点と展開(1),(2)」(各¥1,900)

第17回 1994年6月3日(会長:渡辺決)、京都、がん疫学研究と臨床医学の接点、篠原出版:癌の臨床 Vol.41、No.4、1995、特集「がんの高危険群の臨床疫学的特徴」(¥1,900)

第18回 1995年6月2日(会長:馬淵清彦)、広島、がんのリスク評価、篠原出版:癌の臨床 Vol.42、No.4、1996、特集「がんのリスク評価」(¥1,900)

東西

東西編集後記

8月の名古屋での第19回日本疫学研究会ならびに第14回国際疫学学会学術会議(I S M・I E A)では、東海地方の先生方に非常にお世話になり、ありがとうございました。

巻頭を飾っていただきました新代表幹事の大島 明先生のお言葉にもありますように、本研究会をがん疫学研究者の意見・情報交換の開かれた場にしていくためには、このNEWS CASTをさらに充実していく必要があります。そのために努力していきたいと考えておりますので、宜しくお願い致します。

今号より、私が主編集者となり、深尾 彰先生に代わって、国立がんセンター研究所の山口直人先生に副編集者となっていただくこととなりました。深尾先生におかれましては、2年間のご担当ご苦労様でした。

この機会にこのNEWS CASTの用紙の色を変更しようとも思いましたが、頻繁に色が変わるのもみっともないですので、深尾先生の選ばれたこのブルーを継続させていただきます。

(京都府立医科大学公衆衛生 渡辺能行)

深尾先生の後任として、副編集者を仰せつかりました。宜しく願いいたします。平成5年から7年まで国立がんセンターを中心とした情報プロジェクトの立ち上げに忙殺されて疫学の世界から遠ざかっていましたので最近の様子がわからず、固辞いたしました。一度はやらなくてはならないご奉公と思い、結局お引き受けいたしました。耳よりの話題などありましたら、どんどんお寄せ下さい。最近では電子メールという便利なものがありますので、お使いの先生方のためにアドレスを書いておきますので、電子メールでもどうぞ。

最近ではWebホームページなど、情報交換の新しい方法が急速に発展していますが、がん疫学研究会でもそのようなメディアを使ってNEWS CASTなどを幅広く読んでもらえると良いかなと考えています。その面でも多少でもお役に立てれば幸いです。

(国立がんセンター研究所がん情報研究部

山口直人)

電子メールアドレスnyamaguc@gan2.ncc.go.jp

発行

日本がん疫学研究会

事務局 〒464 名古屋市千種区鹿子殿1-1  
愛知県がんセンター研究所疫学部 気付  
TEL: 052-762-6111 (内線8852) FAX: 052-763-5233  
振込口座 00810-2-37001

編集責任者

渡辺能行

山口直人